

# 小学校外国語活動の校内研修を効果的に進めるための研修資料の作成を目指して

学校名 **A E E N 校内研究指導資料開発部**

所在地 〒071-0751  
北海道空知郡中富良野町本町5番17号

ホームページ  
アドレス <http://www.aeen.jp>

## 1. 研究の背景

A E E N (Asahikawa English Education Network) は、B-SLIMに基づく授業の公開・共同実践研究発表会として開催された平成15年北海道英語教育研究大会後の9月に設立されました。旭川市周辺を拠点として、年間7回のワークショップや授業研究会を通じて北海道の小学校における英語教育の向上に向け活動しています。活動内容は、①歌やアクティビティーの交流、②B-SLIMに基づいた模擬授業、③外部講師を招いてのアクティビティー研究、④外国人講師による発音スキルアップ講座、⑤授業研究会など多岐に渡ります。

平成23年4月に、これまで窓口が1つだった研究部の体制を、①校内研修指導資料開発部、②ICT活用部、③教材・アクティビティー開発部、④特別支援教育外国語研究部の4部門とし、“Hi, friends!”を基軸としながらも、一歩先を見越した幅広いアプローチができるように、理論研修と授業実践に取り組んできた。

外国語活動が必修化されて以来、授業作り、アクティビティーの組み方、評価の基準やその方法などを不安視する声が、A E E Nの参加者からも上がっていました。外国語活動を円滑にするために校内研修を企画・運営するという目的で、各学校から外国語活動を推進する教諭が集められて行政主導の研修が行われました。しかし、各学校においては十分な研修資料や時間がないなどの理由から、なかなか実のある校内研修を実施できないという意見が多く聞かれました。そこで、これらの声に応えるために、これまで10年間の活動で蓄積してきた指導案や授業研究のビデオなど多種多様な資料を活用して、校内研修資料を作成することにしました。校内研修資料は、各学校の実態に合わせて作成して活用することが一般的であり、他校の研修資料を目にする機会はあまりありません。しかし、先にも触れましたが、A E E Nには外国語活動が必修化になる前、総合的な学習の時間で英語活動が行われて時から取り組んできたアクティビティーや映像などの豊富な資料があり、様々なニーズに対応した研修資料を作成することが可能だと考え、今回の研究課題を設定し、取り組むことにしました。

### AEEN(旭川英語教育ネットワーク)

- 平成15年9月設立。
- 年間7回のワークショップと授業研究会の開催。
- 活動内容
  - ・歌やアクティビティーの交流
  - ・B-SLIMに基づいた体験模擬授業
  - ・外部講師を招いてのアクティビティー研究
  - ・外国人講師によるスキルアップ講座
  - ・授業研究会

○B-S-L-I-M (Bilash's Success-guided Language Instructional Model)

- ・カナダのアルバータ州立大学オレンカ・ビラッシュ (Olenka Bilash) 博士が提唱する第二言語指導法。
- ・B-S-L-I-Mは、学習者が主体的に第二言語を学べるよう、主体的な学びを形成するための段階的な指導の在り方と、学習者の心理的負担を取り除く方策について示されている。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、校内研修の充実に寄与し、旭川市を含む上川管内、しいては北海道における外国語活動の更なる発展に貢献することである。そこで、上川管内（旭川市を含む）の校内研修に充当される年間時数が25時間程度であることを踏まえ、紙ベースの研修資料と映像資料（全20巻のDVD）で20時間分の校内研修資料を作成しました。また、この研修資料の普及と効果的な活用のために、①A-E-E-Nが主催する研修会“Let's Enjoy English”において研修資料を活用したワークショップの開催、②ワークシートを含んだ20時間分の校内研修資料（全20巻）の貸し出し、③A-E-E-Nのホームページよりダイジェスト版の配信、の3本柱で研究に取り組むことにしました。

研究の背景でも触れましたが、校内研修の資料は、各学校の実態に合わせて作成し活用するものです。しかし、A-E-E-Nは有志による教育団体ですので、上川管内での外国語活動の実態を総括的に捉えて、研修資料を作成することが可能であるとの結論に至りました。このようなコンセプトで研修資料を作成できるのは、私たちのようなフットワークの軽い研究会の長所であると考え、校内研修資料を作成することにしました。

## 3. 研究の方法

今回のプロジェクトに先立ち、部会内に「校内研修資料作成委員会」を立ち上げました。研究の目的や意義について改めて共通理解を図ると共に、「どのような研修資料を作成するのか」ということについて、徹底的に議論を行いました。「授業の様子が見たい」、「指導理論について理解を深めたい」、「いろいろなアクティビティーが知りたい」、「授業の組み立て方について学びたい」など、様々な意見が出されました。そこで研修資料は、①理論研修、実践研修、実技研修（ワークショップ）の3本立てにする、②実践研修と実技研修は研修資料と映像資料を1セットにする、ということにしました。

### 校内研修資料の概要

- 全20巻のDVDを作成
  - ・研修資料や映像資料を収録
- ※20～25時間程度の研修を想定
- 研修資料の周知方法
  - ・研修会におけるワークショップの実施
  - ・宣伝用パンフレットの配布
  - ・HPよりダイジェスト版の発信

#### 4. 研究の内容・経過

今回の研究は、研究テーマを設定し、研究仮説を立てて実践を行い、その成果と課題をまとめるという研究スタイルとは異なります。先にも述べましたが、研究課題は、小学校外国語活動の校内研修を効果的に進めるための研修資料の作成です。研究の経過としては、①研修資料の概要の決定、②DVDに収録する資料の精選、③本年度の授業実践の決定、の3点です。特に、②に関わっては、「校内研修資料作成委員会」を開催し、何度も議論を重ねました。その中で、今回作成する研修資料は、外国語活動の研修を行ったことのない学校から、先進的に取り組んでいる学校まで多くの学校で活用できるように、様々なトピックについてまんべんなく収録することになりました。また、できるだけ映像資料を盛り込むなど、使いやすさとわかりやすさを意識しました。

- 理論研修：外国語活動の意義と目的について、学習指導要領について、B-SLIM理論について
- 実践研修：外国語活動の授業場面について（映像）
- 実技研修：B-SLIMを構成するアクティビティー コミュニケーション活動の基礎講座

#### 5. 研究の成果①（校内研修資料について）

今回作成した校内研修資料は、理論編、実践編、ワークショップ編の3つに分かれています。

理論編は、A E E Nがこれまで指導理論として取り入れ、研修を行ってきたB-SLIM理論や学習指導要領など、外国語活動を指導する上で知っておきたい

理論的な要素について研修を行うことができる内容となっています。実践編は、「英語ノート」や“Hi, friends!”を活用した授業実践の様子をDVDに収録してあります。映像を見て、授業の流れについて学んだり、電子黒板などのICT機器の活用方法について理解を深めたりたりすることができます。ワークショップ編では、外国語活動の目標である、「コミュニケーション活動」の本

##### 1. 理論編（7時間分）

- Vol. 1「外国語活動の進め方」
- Vol. 2「学習指導要領とHi, friends!」他
- Vol. 3「指導方法を学ぼう B-SLIM 概論」他
- Vol. 4「外国語活動の時間を構成してみよう」
- Vol. 5「Output の実際を知ろう」
- Vol. 6「学級作りに生かす外国語活動」
- Vol. 7「研修を通して、教師は何を身につけていく必要があるか」

##### 2. 実践編（9時間分）

- Vol. 8「授業を通して学ぶ研修①」
- Vol. 9「授業を通して学ぶ研修②」
- Vol.10「授業を通して学ぶ研修③」
- Vol.11「授業を通して学ぶ研修④」
- Vol.12「電子黒板の活用」
- Vol.13「ペア活動の実際①」
- Vol.14「ペア活動の実際②」
- Vol.15「Hi, friends!を活用した Activity①」
- Vol.16「多様なアクティビティー①」

質やB-S-L-I-Mのベーシックなアクティビティーについて、映像資料を通して理解を深めることができます。

この研修資料の最大の特徴は、学校の実態に応じて、必要な資料を選んで研修を組み立てることが可能なことです。

### 3. ワークショップ編（4時間分）

○Vol.17「演劇的手法を用いたコミュニケーション活動①」

○Vol.18「演劇的手法を用いたコミュニケーション活動②」

○Vol.19「Activity 紹介①」

○Vol.20「Activity 紹介②」

#### ○校内で指導理論が統一されていない場合

理論編の vol.1～vol.5 を使って研修を行い、指導理論を確立し、研修の方向性を決めるのに有効です。

#### ○実際の授業場面を見て研修を行いたい場合

実践編の vol.8～vol.16 には、「英語ノート」や“Hi, friends!”を用いた授業場面や活動が収録されています。どれもB-S-L-I-M理論に基づいた流れになっていますので、外国語活動の授業の流れを理解するのに有効です。

#### ○アクティビティーの引き出しを増やしたい場合

理論編 vol.1 には児童が活動する様子を、ワークショップ編 vol.19～vol.20 にはA E E Nの会員が活動する様子が収録されています。B-S-L-I-Mの基本的なアクティビティーばかりですので、アクティビティーについて学習し、自分なりのアレンジを加えて、アクティビティーの引き出しを増やすことができます。

#### 6. 研究の成果②（旭川市立北光小学校に研修資料を活用していただいで）

旭川市立北光小学校では、平成20年度より、2期6年にわたり、外国語活動（英語活動）を校内研究の窓口に据え、全学年で外国語活動（英語活動）に取り組んでいる。

本年度は、第2期3ヶ年計画の最終年度ということもあり、新しいアクティビティーの開発を授業研究の中核として研究を推進した。

A E E Nワークショップにおいて、校内研修資料が完成したとの報を受け、早速、今年度は下記の2度の校内研修で資料を活用させていただいた。



- ① 本校は、研究開始当初より、北海道教育委員会が普及を図る第2言語指導理論であるB-S-L-I-Mを導入し、研究を進めてきた。今回本校で活用した研究資料は、B-S-L-I-Mの考え方を基盤

とし、理論的な解説はもとより、実践的なアクティビティーを数多く映像で収録してあることから、人事異動等で新たに研究同人に加わった方々には、短時間でアウトラインを知ってもらうことができた。わずか1時間程度の研修ではあったが、資料のもつ有効性を検証することができた。

- ② 10月に本校で行われた授業研究会においては、4学年「Body parts を使って」の単元で授業を行った。既習事項の「色」に加えて、「Draw (Color) on your nose」等の表現を用いて、英語活動を公開した。これまで本校では、キーワードゲームやBINGO等のBasicなアクティビティーを中心に活動を構成していたが、新たな視点でつくるアクティビティーや発展的な活動を支えるアクティビティーの開発が急務であると考えていた。今回本校で活用した研究資料は、英語教材“Hi, friends!”をもとに発展的なアクティビティーも数多く集録していることから、アクティビティーを開発する際の参考となった。



外国語（英語）の実践研究を進める際に、研究のための書籍は多々あるが、アクティビティーをレベルごとに映像化した研究資料は決して多くはない。そのような状況下で、今回の資料は、単に研修資料という意味合いだけではなく、映像を見る度に新しい外国語活動を構成する視点や指示等の英語を自然体で話す指導者に会えることができるという点においても有効であると思われる。是非多くの学校で活用していただくことを願っている。

（使用学校・代表（授業者） 旭川市立北光小学校教諭 小山 俊英）

## 7. 今後の課題・展望

外国語活動は、「小中連携」、「児童の評価」、「コミュニケーション活動の内容」など、様々な課題が山積しています。これらの課題を解決していくためには、多くの教員が実際に外国語活動を指導し、課題を共有化したり自分事として捉えたりすることが大切になります。その一方、英語に対する苦手意識や不安感から、高学年の担任になることを避ける教員もいるという話を耳にします。国語や算数同様に自信をもって外国語活動を指導するためには、「研修」が必要不可欠なのである。しかし、日々の多忙化の中、ゆとりから学力へと移行しつつある状況においては、外国語活動の教材研究や校内研修にまで手が回らないのが現状です。

そんな状況を少しでも改善するために、校内研修資料の作成に着手しました。「指導理論や指導方法が確立していない学校でも、外国語活動が研修テーマとして位置付いている学校でも使える資料」を目指して作成しました。これまで、総合的な学習の時間における英語活動以前から積み重ねてきた実践やワークショップ等の資料を、現在の外国語活動のねらいに即して編集し直しました。旭川市立北光小学校をはじめ、いくつかの小学校において、実際に活用していただきました。使ってみた感想は概ね好意的なものが

多かったですが、課題も浮き彫りになりました。

理論編は、A E E Nで取り組んでいるB - S L I M理論をもとに構成してあります。一般の先生方には馴染みが薄いものであるため、資料を読んだだけでは十分に理解が深まらない点もあるとのことでした。ですので、理論編については、B - S L I M理論について理解しているA E E Nの会員が講師として出向いて研修を進めたり、紙の研修資料に映像などで説明を加えたりする必要があると感じました。

実践編は、映像で紹介されているアクティビティーを実際に体験することを想定していたため、映像資料については短時間で内容を理解できるものになるように配慮しました。しかし、アクティビティーによっては、映像を見てもわかりにくいものもあるとのことでした。また、アクティビティーを含め、もっと多くの授業場面を見たいとの意見をいただきました。

今後は、校内研修作成委員会において、今年度の成果と課題を振り返り、外国語活動の内容がより充実したものになるように、研修資料のマイナーチェンジを図っていきたいです。そして、今後予定されている「教科化」や「中学年からの外国語活動」を見越し、例えば「評価」などについて研修を深められる資料を作成していく予定です。

研修資料の普及について、今年度は研修会での紹介や研修資料の貸し出しが主だった活動でした。今後は、A E E NのHPからダイジェスト版を発信したり、クラウド機能等を活用して資料をダウンロードしたりできる方法について検討しております。校内研修作成委員会の中で、「I C Tに堪能ではない教員はまだ多い。研修資料を冊子にして配布してはどうか。」という意見が出ました。実際に手元にあると、いざというときに使い勝手がよいということに改めて思い至りました。ですので、次年度は、紙ベースに研修資料や映像資料（ダイジェスト版）の配付についても行って行きたいと考えております。その中で、研修資料の貸し出しについても、積極的に行って行きたいと考えております。

## 8. おわりに

2020年のオリンピックイヤーに向けて、小中学校の「英語」を取り巻く状況が大きく変わりそうです。小学5・6年生からの英語の教科化、小学3年生からの外国語活動の必修化、中学校の英語の授業がオールイングリッシュになることなどが報道されております。教科書や教材の作成、評価基準の策定などハード面での整備はもちろん重要なことです。しかし、現場で外国語活動の指導に携わっていると、教員の研修などソフト面の充実が喫緊の課題だと感じております。

外国語活動を研究の窓口に据えて校内研修を行いたくても、昨今の「学力重視」の現状においては、国語や算数の指導が重視され、外国語活動の研修にまで手が回らない状況にあります。そのため、市販の図書を購入したり、自主的に研修会に参加したりして研鑽に励んでいる教員が大勢います。ですが、本来は学校教育で行われている教育活動である以上、教職員のスキルアップを目的に研修が保障されるべきだと思います。

今回作成した校内研修資料は、個人で活用することもできますが、校内研修の時間や職員会議前後の短い時間でも活用できるような内容になっております。今後も、A E E Nのワークショップやホームページ

などを活用して、研修資料についての周知を行い、多くの学校で活用していただけるように努めていきたいと思ひます。また、今後も先生方からご意見をいただき、教科化に向けて研修資料がよりよいものになるように適宜バージョンアップを図っていきたくて考えております。

< 参考文献 >

- ・B-SLIMモデルについて（資料1） <http://www.eepos.hokkaido-c.ed.jp/bslim.html>

[外国語活動の指導力向上を目指したPDCAサイクル]

